



KPMG ESG保証 成熟度指数2025

モメンタムを維持する



はじめに

世界は急速に進化しており、サステナビリティに対する期待も高まっています。かつては主にコンプライアンスの実践とみなされていたものが、今や戦略的に不可欠なものとなりました。ESG保証は、もはや規制の基準を満たすだけのものではなく、透明性と説明責任が求められる時代において、信頼を構築し、価値を切り拓き、レジリエンスを示すものです。

今年のKPMG ESG保証成熟度指数は、重要な瞬間を捉えています。企業サステナビリティ報告指令（CSRD）やIFRS®サステナビリティ開示基準などの規制の枠組みが進展するにつれて、組織には単に反応するだけでなく、行動することが求められています。

収集したデータによれば、一部のセクターが自信を持って前進している一方で、他のセクターはまだ初期段階にあることを示しています。しかし、全体としていえることは、ESG保証は

ゴールではなく、明確なコミットメントを必要とする道のりだということです。

サステナビリティ保証の潜在的なメリットと要請はますます明らかになっています。回答企業は、株主価値やコスト効率の向上から、評判の向上や収益性の改善に至るまで、さまざまなポジティブな結果を報告または予想しています。

KPMGの調査では、CSRDの下で報告を行ったウェーブ1の企業のうち、60%が市場シェアの獲得や顧客基盤の拡大を期待しており、半数以上が利益の増加を予測しています。同時に、KPMGの調査は、サステナビリティ保証に対する要請がより広範なステークホルダーから強まっていることを示しています。これは、サステナビリティ保証が、規制遵守の問題に留まらず進化しているといえます。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある
取組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーにと
って大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

KPMGでは、サステナビリティをイノベーションと長期的な価値創造の触媒と捉えています。

今年の指数で取り上げられたリーダー企業たちは、単に形式を整えるだけでなく、ESGを戦略、文化、業務の中核に組み込んでいます。彼らは、より良い意思決定を促進し、ステークホルダーの信頼を強化し、組織の将来性を高めるために保証を活用しています。



Scott Flynn
監査グローバル責任者
KPMGインターナショナル

私たちは、目的を持ってイノベーションを追求し、サステナビリティの課題に対処するために、ダイナミックで多次元的な保証モデルを設計しています。また、多くの初期のCSRD報告企業を含む、幅広い組織を支援することを誇りに思っています。

サステナビリティ報告が財務報告と同様に企業生命に不可欠なものとなるにつれ、KPMGは、ESG保証のメリットを最大限に実現するために、監査対象の企業を支援する準備が整っています。



Mike Shannon
ESG保証グローバル責任者
KPMGインターナショナル



Neil Morris
ESG保証メソドロジー
グローバル責任者
KPMGインターナショナル

メソドロジー： 指数について



KPMGは、平均収益が168億米ドルの業界や地域を越えた企業において、ESG報告および保証の知識を持つ1,320人のシニア・エグゼクティブと取締役会メンバーを対象に調査を実施しました。このうち、314社が2024年1月1日以後に開始する会計年度において、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）に基づいて、サステナビリティ開示を報告し保証を得ていると特定されました（ウェブ1）。また、各大陸の状況を把握するため、アフリカ、メキシコと中東の回答企業を含めるためにサンプル数を拡大しました。

KPMG ESG保証成熟度指数は、次の5つの柱により構成され、企業がこれらの各分野における進捗状況の測定をするのに役立つように設計されています：(1) ガバナンス、(2) スキル、(3) データ管理、(4) デジタルテクノロジー、(5) バリューチェーン。

それぞれの柱は、調査の1つ以上の質問によって裏付けられています。柱内の各質問から導かれたスコアは平均化され、柱の全体スコアが算出されます。

その後、柱のスコアは次のように重み付けされました。

ガバナンス	0.25
スキル	0.25
データ管理	0.25
デジタルテクノロジー	0.15
バリューチェーン	0.10

この指数は0から100の範囲で測定され、企業がこれらの分野でどの程度進展を遂げているかを審査し、企業のESG報告における相対的な成熟度を評価することで、第三者保証の準備状況を判断します。ランキングに基づいて、企業をリーダー（上位25パーセンタイル）、アドバンサー（次の50パーセンタイル）、およびビギナー（下位25パーセンタイル）に分類されます。

調査は2025年4月から5月にかけて行われました。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

目次

06

エグゼクティブ・
サマリー

07

ESG保証：さまざまな段階に
ある取組みへの進捗

12

CSRDの導入から
得られた教訓

18

CSRDがもたらした
具体的な便益

21

急速に進展する
グローバルな報告

23

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

26

進展の兆しからの
後押し

32

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階に
ある取組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

エグゼクティブ・サマリー

ステージ別の
平均成熟度指数スコア

46.77

すべて

65.21

リーダー企業

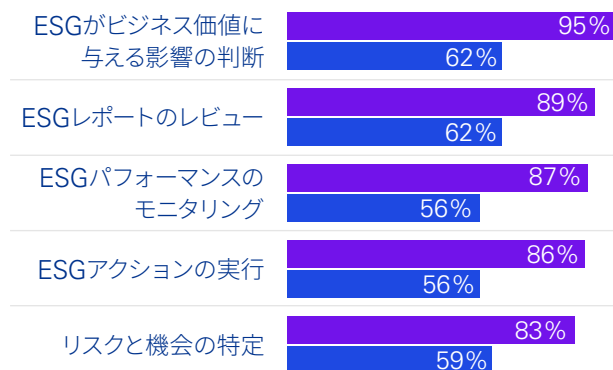
45.73

アドバンサー企業

30.54

ビギナー企業

中程度から広範囲にわたる取締役会の責任領域



■ リーダー企業 ■ ビギナー企業

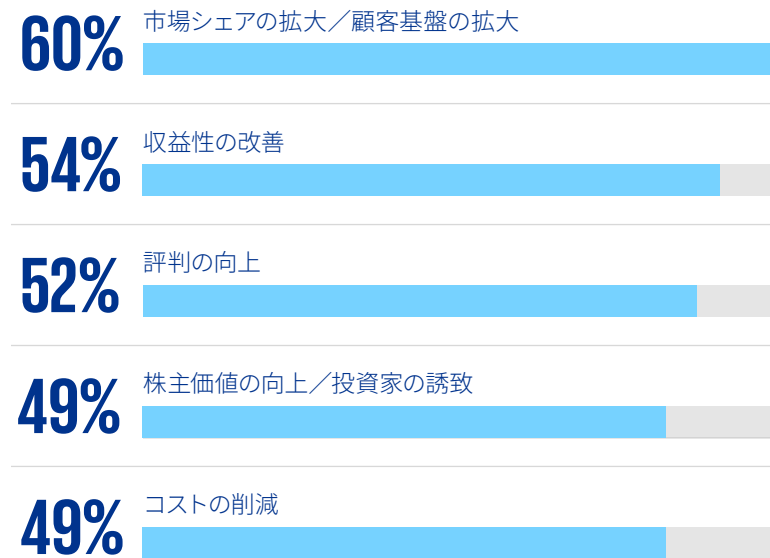
リーダー企業による3年間の利用増加が
最も大きいテクノロジー

テクノロジー	2025年の利用	ポイント増加率
クラウド	83%	+25
ESGデータダッシュボード	53%	+27
ESGプラットフォーム	50%	+30
データレイク/データセンター	38%	+22
従来のAI	65%	+16
生成AI	16%	+16



規制の曖昧さにもかかわらず、**74%**の企業がCSRDに基づくサステナビリティ報告計画を変更していないことを示しています-これは市場主導の強いモメンタムを表しています。

ESG保証に期待される上位5つのメリット：
CSRDのウェーブ1企業



意図を持ったアプローチ：

ESG報告と保証は、目的を持って加速する必要があります。先進的な組織は、単に規制要件を満たすだけでなく、思慮深く適切な行動を通じて長期的な価値を創造し、ステークホルダーの信頼を強化することを目的としています。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

ESG保証： さまざまな段階にある 取組みへの進捗



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

進展の兆しからの後押し

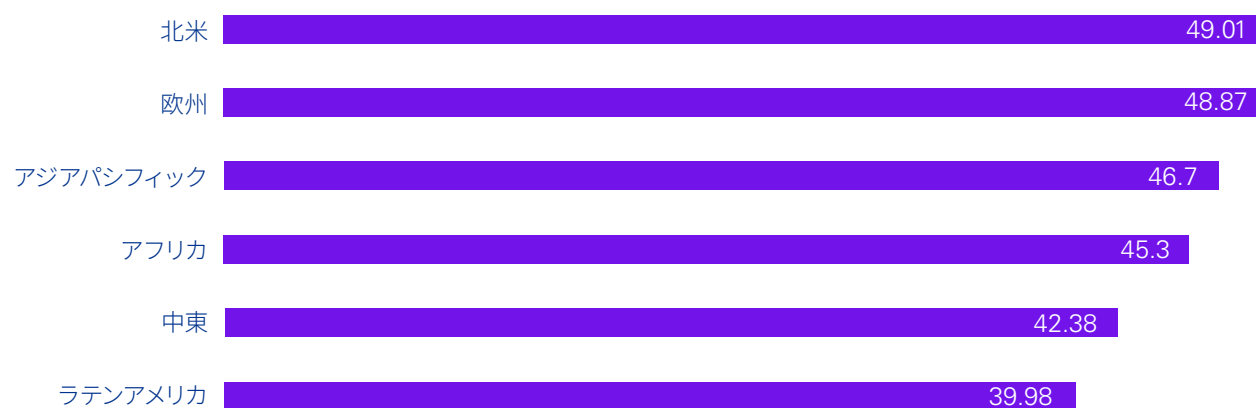
リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

地政学的な逆風と変化する規制アジェンダの中で、今年の指数は、回答企業の全体的な準備状況スコアが、カテゴリ全体を通じて47.7から46.9へ、わずかに低下したことを示しています。

KPMGの最初の調査から2年が経過した現在でも、76%の企業はESGの成熟度が初期または中期の段階に留まっています。

本社の所在地域別の成熟度スコア



先進的なグループは前進

それにもかかわらず、一部の組織は前進しており、いくつかの傾向が見られます。地理的には、北米の企業が平均成熟度スコア49.0で首位を維持しています。しかし、CSRDに後押しされて、欧州の企業は昨年からの差を縮めており、平均スコアは48.9となっています。ラテンアメリカと中東の企業は、成熟度の初期段階にあります。

予想どおり、企業の規模が大きいほど、独立した保証に対する準備が整っています。収益が100億米ドルを超える組織の平均スコアは52.8であり、収益が10億米ドル未満の企業の平均スコアである40.4を大幅に上回っています。

収益別平均成熟度指数スコア

40.44 10億米ドル未満

42.13 10億米ドルから
50億米ドル

48.29 50億米ドルから
100億米ドル

52.80 100億米ドル超

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーにと
って大事なもの

進展の兆しからの後押し

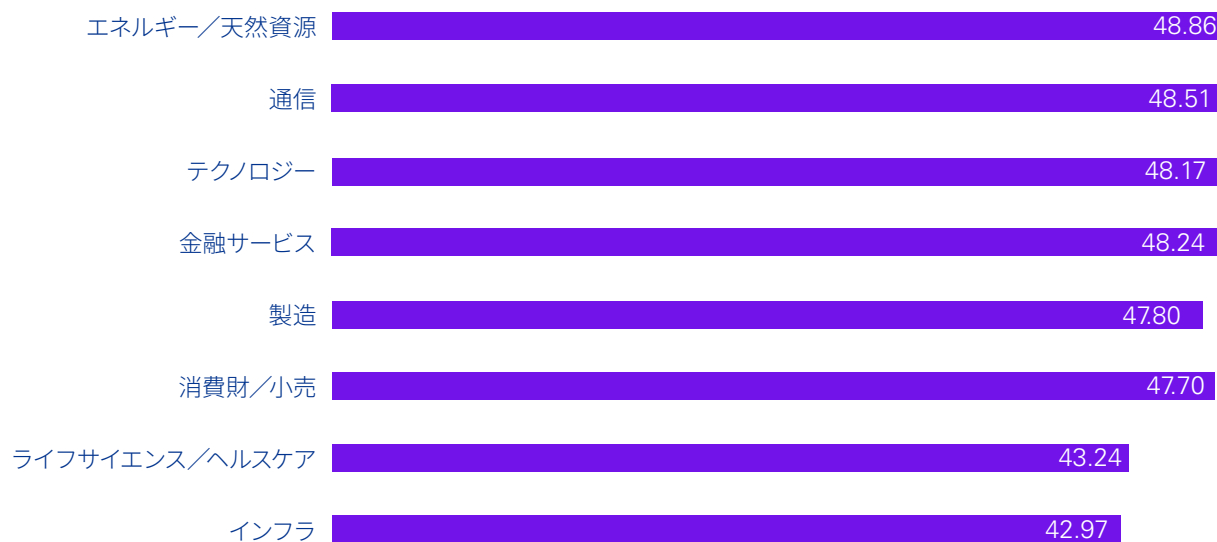
リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

セクター別では、いくつかの変化が見られました。昨年は金融サービス事業が先行していましたが、今年は収斂が進んでいます。エネルギーおよび天然資源の企業がリードしていますが、他のセクター（通信、テクノロジー、

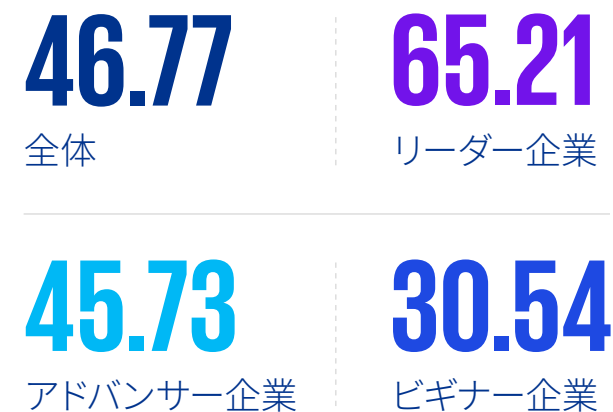
金融サービス、製造、消費財／小売りなど）との間には、ほとんど差がありません。2024年と同様に、ライフサイエンス／ヘルスケア、およびインフラは依然として遅れを取っています。

業界別の平均成熟度指数スコア



全体として、リーダー企業は大きく先を行っており、その成熟度スコアは65.2（2024年の67.0からわずかに低下）となっています。リーダー企業のスコアは中位のアドバンサー企業（45.7）よりもかなり高く、ビギナー企業（30.5）のスコアの倍以上です。この差は昨年から縮まっておらず、取組みの初期段階にある組織は、成熟度スケールを上げるための原動力となる「クイックウィン」をまだ実現できていないことを示しています。

ステージ別の平均成熟度指数スコア



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

規制の状況は依然として複雑

回答企業全体の成熟度の向上がそれほど進んでいない
主な要因は、不明瞭な規制の状況によって悪化した
報告要件の複雑性です。報告要件の複雑性と不明瞭で
変化する規制は、調査の回答企業が挙げた2つの主要
な障壁であり（それぞれ51%と49%）、いずれも2024年
の41%から大きく増加しています。

実際、リーダー企業の方が、取組みの初期段階にある
企業よりも、これらの要因を大きな障壁とみなしている
ことは注目に値します。リーダー企業の59%が不明瞭
で変化する規制を障壁として挙げているのに対し、ピギ
ナー企業では45%です。これは、ESG報告と保証の
成熟度が向上しても、満たさなければならない要件の
複雑さや規制環境の変化により、実施しなければならない
作業がそれに比例して困難になるという現実を強調
しています。

“

新たな国際基準への準拠に際して課題に直面する
なかで、私たちは規制の変化を積極的にモニタ
リングしながら、進展を推進しています。”

シニア・エグゼクティブ
英国の消費財／小売企業

その結果、多くの企業はESG報告と保証を進めることに
苦慮しているようです。

複雑な規制環境に加えて、主要な障壁にはリーダ
ーシップからの支持を得ることと、持続的な投資を確保
することがあります。特に、目前に規制上の要請がない
場合にはリソースが再配置されてしまう可能性があります。
この領域における進展の必要性は明白ですが、
それは意図的かつ適切になされなければなりません。
組織は、単にコンプライアンス目的で取組みを進める

のではなく、長期的な価値の創出とステークホルダー
との信頼構築というより大きな目標を持たなければなり
ません。

課題を克服するための手段が講じられているにもか
かわらず、依然として残る他の課題には、サプライヤーの
ESGパフォーマンスが不十分であること（昨年の43%
から47%に増加）や、データへのアクセスが不十分で
あること（昨年の33%から46%に大幅に増加）が含ま
れます。

ESG保証の準備における課題の増大

	2025年	2024年
報告要件の複雑性	51%	41%
不明瞭で変化する規制	49%	41%
サプライヤーのESGパフォーマンスが不十分	47%	43%
データへのアクセスが不十分	46%	33%
ITおよびデジタルソリューションが不十分	38%	35%
コンプライアンスのコストと利用可能な資金	33%	31%

報告ポリシー策定に関する進展

過去1年間で、報告ポリシーの策定が計画段階または初期段階にある調査回答企業の割合は38%から45%に増加した一方で、中期または完全な導入段階にあると回答した企業は62%から55%に減少しました。それでも、一部の企業はCSRDに準拠し始めており、導入完了と回答した企業の割合は18%から21%に増加しました。

“

データ処理の複雑性やさまざまなESG制度が課題となっています。そのため、データ入力を管理し、報告プロセスを標準化し、パフォーマンスをより効果的にモニタリングするために、より優れた人材とツールに投資する必要があります。”

シニア・エグゼクティブ

日本のテクノロジー企業

ESG目標の運用化に関してあまり進展がみられない企業

KPMGの調査によると、過去2年間で多くの企業がESG目標を達成するための運用化に関してほとんど進展を遂げていないことがわかりました。

ほとんどの企業は、まだこのプロセスの中間の2つの段階にあります。主要な業務機能間に展開され、進捗状況を積極的にモニタリングしているESG目標を確立した企業は半数未満です。さらに一歩進んでインセンティブを追加した企業はごくわずかでした。しかし、収益が100億米ドルを超える大企業は、57%がESG目標を業務に組み込み、モニタリングしていると回答しており、やや改善しています。

重要なポイント：

基盤となる成熟度を優先する：ESG保証の成熟度において、76%の企業は初期段階または中間段階に留まっています。クライアントは、成熟度曲線を上昇させるために、強力なガバナンス、データ、スキルの基盤の構築に注力する必要があります。

規模と地域の問題：大規模な企業や北米およびヨーロッパの企業がリードしています。小規模な企業は、リソースの制約や規制の複雑性を克服するために、個別の戦略を検討する必要があります。

意図を持ったアプローチ：ESG報告と保証を加速するには、目的を持って行わなければなりません。先進的な組織は、規制要件を満たすためだけでなく、思慮深く適切な行動を通じて長期的な価値を創出し、ステークホルダーの信頼を強化するために前進しています。

“

目標の運用化が全体的に進んでいないことが懸念されます。ESG目標は、単に報告の枠組みになるのではなく、事業の運営方法において真の戦略的变化を促すものになることが重要です。”

Carlos Fernández

ESG保証リーダー

KPMGメキシコ

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

CSRDの導入から 得られた教訓



Foreword

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

**CSRDの導入から
得られた教訓**

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

基準が進化し、規制要件が変化するなかで、企業は自社のESGイニシアティブを前に進めるか、先送りして遅れを取るリスクを冒すかを見極める必要があります。

引き続き不確実性が残る領域の1つに、欧州連合のCSRDの適用時期と範囲があります。2025年初頭に欧州委員会によって導入され、現在立法審査中のオムニバスパッケージの法案は、ESG報告の簡素化と合理化を目的としています。制定されれば、CSRDの範囲が大幅に縮小され、サステナビリティ報告の義務付けは最大手の企業のみに限定されることになります。並行して、欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）の改訂作業も進められており、企業が最終的に報告しなければならない開示の数が大幅に削減することが想定されています。例えば、説明的な記述よりも定量的なデータポイントを優先させることや、データに関する要求を義務的なものと任意のものを明確に区別することが挙げられます。まだ報告が義務付けられていない企業については、初度適用は2年間延期されています。

規制の曖昧な状況にもかかわらず、74%の企業がCSRDに基づくサステナビリティ報告の計画に変更がないと回答しています。そのうち41%近くの企業が保証のための準備を進める意向を維持しており、市場主導の強いモメンタムを示しています。

タイムラインは変わるかもしれませんが、透明性に対する投資家からの精査とステークホルダーからの要請はますます高まっています。独立した保証を受ける方向性を維持することにより、すでに行われた多額の投資を保護するだけでなく、サステナビリティにおける信頼とリーダーシップの向上にもつながります。

モメンタムを維持することで、企業は将来の義務化に対する準備を確実にすることができるようになるだけでなく、ステークホルダーからの信頼を高めることもできます。

CSRDに基づいて報告する企業へのオムニバス法案の影響

	CSRD
オムニバス法案は計画に影響を与えません。ESG報告と保証の取組みを継続します。	41%
オムニバス法案はESG報告の計画に影響を与えません。ただし、正式な保証の取得は義務化されるまで見送ります。	33%
EUのオムニバス法案に沿って計画を遅らせ、要求されたら報告を行い保証を受けます。	26%

74%

の調査対象となった企業が、CSRDに基づくサステナビリティ報告の計画を変更していないと述べています – これは市場主導の強いモメンタムを表しています。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

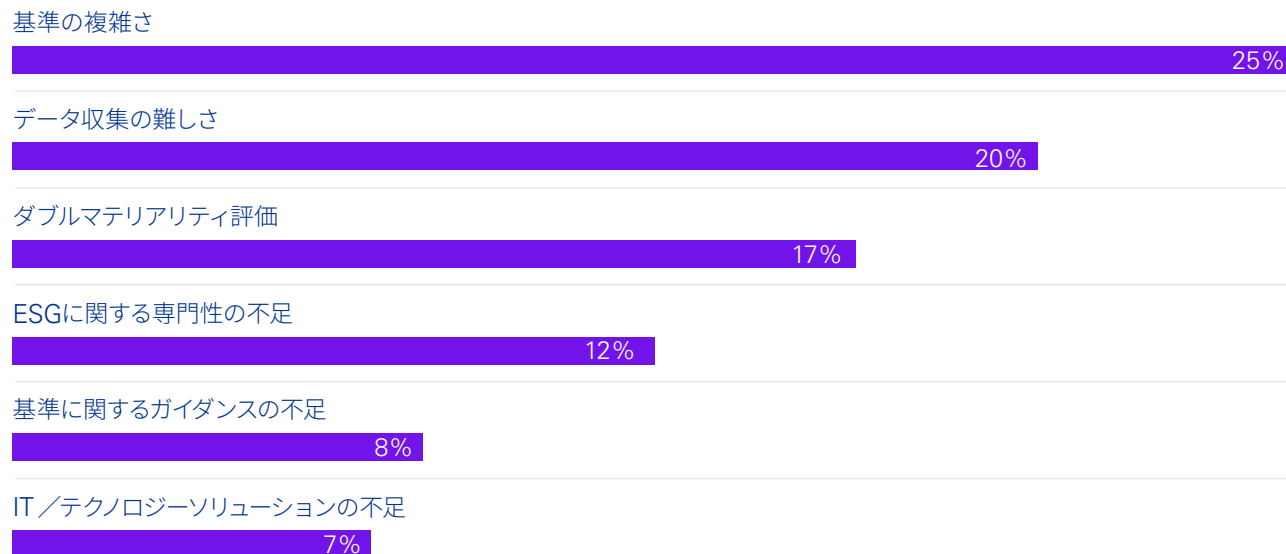
KPMGのサービス／ツールの紹介

コンプライアンス上の課題

ESRSの複雑性は、データ収集の課題と相まって、調査対象のウェブ1企業にとって最も大きな障害となっています。組織は、サプライヤーやパートナーからの信頼性の高いデータへのアクセス、データの可用性と品質の確保、および報告プロセス全体の一貫性の維持において、大きな障害に直面しています。

これらの課題の主な要因は、ESRSによって義務付けられた指標の数と範囲の大幅な増加です。これらの指標の多くは、組織がこれまで追跡したことがないものが多いため、報告プロセスをかなり複雑にします。この複雑性は、企業に財務的マテリアリティとインパクト・マテリアリティの両方を評価することを求めるダブル・マテリアリティ評価 (DMA) の義務によってさらに増大しています。この概念自体はまったく新しいものではありません、しかしDMAの導入は、従来の裁量的なアプローチを、標準化された厳格なメソドロジーに置き換え、取締役会と監査委員会による監督も大幅に増加しました（指標に関する詳細な分析については、26ページをご参照ください）。

最初のCSRDサステナビリティ・ステートメントの作成における最も大きな課題



“

初年度は報告企業にとって非常に新しい経験であり、ベンチマークとなる過去の比較可能なデータがほとんどないなかでの暗中模索のような状況でした。しかし、私は将来的にはそれが容易になると信じています。そして、CSRDの基本的な政策目標の達成に役立っている兆候もみられます。”

Patricia Reverter

ESG保証リーダー

KPMGスペイン

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

**CSRDの導入から
得られた教訓**

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーにと
って大事なものの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

CSRDに基づくESG報告と保証の準備は長期にわたるプロセス

CSRDに基づくESRSのウェブ1報告企業からの回答は、準備に時間がかかることを示しており、CSRDに準拠することの複雑さを浮き彫りにしています。

大多数の企業は、独立した保証に耐え得るレベルまでESRS開示を適切に準備するのに1年以上かかりました。これは、複雑な開示を要する大企業に特に当てはまります。この調査結果は、報告の適用時期を遅らせ、報告要件を簡素化することを提案するオムニバスパッケージの背後にある考えを裏付けています。

調査の回答によると、このプロセスには多岐にわたる主要なステークホルダーとの連携が必要であることも示されています。ほぼすべての企業（88%）が、プロセスの過程で外部の保証提供者と協議しています。すべての企業が監査委員会を関与させていましたが、半数強の企業は中程度の関与に留まっていた。すべての企業が、プロセスの過程で取締役会と協議していましたが、ほとんどの場合、その頻度は四半期ごとでした。大企業は他の企業よりも監査委員会を関与させることが多かった一方で、小規模な企業（監査委員会が小規模またはあまり活動的でない可能性がある）は、取締役会を月次で関与させることが多い傾向にあるかもしれません。

ウェブ1のESRS報告企業から得られた5つの重要な教訓



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

保証に関する複雑な状況

規制環境の変化により、将来のESG保証要件には一定の不確実性が生じていますが、EUのオムニバスパッケージ法案の下では、限定的保証が標準として存続することが明らかになっています。これにより、企業にサステナビリティ開示に対する信頼を構築するための実務的で達成可能な道筋を提供します。

すべての調査回答企業（CSRDのウェーブ1の報告企業だけでなく）を横断的に見ると、今年は65%の企業がESG開示の一部に対して限定的および／または合理的な保証を受けており、昨年50%の企業と比較して増加しています。

企業は、将来の報告や保証の要件に備えるために、現在の規制上の義務を超えてさまざまなサステナビリティ・データを収集する可能性があることに留意することが重要です。このデータは、業務改善の推進、イノベーションの促進、企業文化とESG目標を整合させるなど、社内目標の支援に役立つ可能性もあります。

投資家が企業価値を評価するために財務諸表とサステナビリティ・ステートメントの双方の情報にますます依拠するようになるなかで、サステナビリティ開示に対して保証を取得した回答企業の約80%が監査法人を通じてそれを行ったことは驚くべきことではありません。各国

の法律の範囲内で、CSRDはEU加盟国に対し、サステナビリティ保証を法定会計監査人あるいは独立した保証提供者のどちらが行うかを決定する権限を与えています。

ESG報告フォーマットに関する実務の進展

企業はどのようにサステナビリティデータを報告しているのでしょうか。データによれば、調査対象企業の過半数（51%）がESGデータを年次報告書の一部として報告しています。そのうち、32%は年次報告書内に設けた個別のESGセクションで報告している一方で、19%はESG戦略と指標を年次報告書内で統合された形で報告し、ESGが企業価値にどのように影響するかを説明しています。この調査を実施した時点では、調査に参加しているEU加盟国のすべてがCSRDを国内法に移行していたわけではありません。それにもかかわらず、ESRS報告企業の54%は年次報告書内でESG開示を公表することを選択しました。

統合的な報告への移行を考えると、財務監査とサステナビリティ保証の両方を単一の組織に関与させることは、実務面でも戦略面でも理にかなっています。保証提供者を統一することで、財務および非財務開示を支えるシステム、統制、ガバナンスについて包括的な理解をしてもらうことができます（多くの場合、これらは同じERPプラットフォーム上に構築されています）。

保証提供者の統一は、報告間の内部整合性を確保するだけでなく、作業の重複を減らし、重要な関連性を見落とすリスクを最小限に抑え、コミュニケーションを効率化します。その結果、規制当局や投資家の高まる期待を支援する、より効率的で一貫性があり信頼性の高い保証プロセスが実現します。

“

保証は、組織のサステナビリティの取組みを検証する上で依然として重要な要素であり、市場に対する透明性と信頼性の両方を向上させます。調査対象となった企業の3分の2以上が、少なくとも一部の開示について限定的および／または合理的な保証を取得している一方で、外部保証をまったく受けていないと報告した企業はわずか2%でした。”

Michael Shannon

ESG保証グローバル責任者

KPMGインターナショナル

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

**CSRDの導入から
得られた教訓**

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーにと
って大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

企業がESGデータをどのように報告するか

	すべて	その他	CSRDウェブ1
年次報告書以降または同日に公表される別個のESGまたはサステナビリティ報告書	49%	50%	46%
財務情報を含み、重要なESG事項に言及している、年次報告書内の個別のESGまたはサステナビリティに関するセクション（ただし、報告された戦略、リスク、事業業績や展望との関連性は明示していない）	32%	33%	31%
企業価値に影響を与える重要なESG事項に関連した業績指標と整合した詳細なESG戦略を開示し、他の場所に含まれる補足情報と関連付けられた統合年次報告書	19%	17%	23%

“

CSRDに関しては、推奨される実務上の報告のあり方や、自社のストーリーを伝える最善の方法について多くの議論があります。EUがESRS要件の簡素化に取り組むなかで、ウェブ1企業は2年目の報告がより容易になる可能性が高く、情報の表示方法に焦点を当てる時間を確保できるでしょう。また、投資家からのフィードバックも、優れた報告がどのようなものであるかを形成するのに役立つでしょう。”

Danielle Landeszen-Campen

ESG保証責任者

KPMGオランダ

このリサーチは、過半数である

51%



の企業が年次報告書の一部としてESGデータを報告していることを示しています。

重要なポイント：

早期に開始し、広範に協議する：CSRD保証の準備には1年以上かかり、監査委員会、取締役会、および外部の保証提供者との緊密な調整が必要です。対象となる可能性の高い企業は、規制の不確実性があるなかでも、今すぐ開始する必要があります。

CSRDを戦略的な機会として捉える：CSRDをコンプライアンス上の負担とみなすのではなく、ステークホルダーと連携し、データの品質を向上させ、ESGに関する優先事項について社内の調整を促進するために活用するとよいでしょう。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

CSRDがもたらした 具体的な便益



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

**CSRDがもたらした
具体的な便益**

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

予想されるように、ウェーブ1のESRS報告企業は、CSRDの対象でない企業よりも進歩しています（それぞれの指数スコアは53.7対44.6でした）。この最初のグループに属している企業は、より強力なデータと報告システムを確立し、ステークホルダーの信頼を高め、透明性の向上と説明責任を示すことによって市場での地位を強固なものとする一方で、同業他社よりもさらに先を行く可能性があります。

“

この段階では、知識が主要な差別化要因となります。多くのウェーブ2の組織は、今後の報告における複雑性を過小評価しています。チームやデータインフラ、テクノロジーを構築するための時間はわずか2年間しかなく、保証の準備には最大で18ヵ月かかるため、その期間は予想よりも早く過ぎ去ってしまうかもしれません。”

Sophie Sotil-Forgues

ESG保証リーダー

KPMGフランス

KPMGがESRSのウェーブ1報告企業からの回答を分析したところ、企業は結果としてさまざまな便益を実感もしくは期待していることがわかりました。大多数の企業が上層部を積極的に動員しており、上級管理職からの関与が広がっています。これは組織の運営やその影響力を伝達する方法を形成する必須な戦略を反映しています。

CSRDは経営トップを動員する

81%がESG報告のレビューに責任を持つ（他の企業では71%）

76%がESGパフォーマンスのモニタリングに責任を持つ（他の企業では67%）

74%がESGに関する行動を実施する責任を持つ（他の企業では70%）

63%の取締役会が少なくとも四半期ごとに会合を開き、ESG事項について議論している（他の企業では49%）

CSRDは主要な業務に焦点を当てる

66%がESGパフォーマンス指標と開示の管理に熟練したチームを設置（他の企業では49%）

52%がサプライヤーに広範な要件を課している（他の企業では48%）

CSRDは環境とDEIのモニタリングを強化する

79%が温室効果ガス排出量（スコープ1および2）をモニタリングしている（他の企業では72%）

61%が労働力の多様性と包括性をモニタリングしている（他の企業では54%）

53%が気候関連リスクの影響をモニタリングしている（他の企業では43%）

51%が健康と安全のパフォーマンスをモニタリングしている（他の企業では41%）

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

報告と保証は事業のパフォーマンスを向上させる

KPMGの調査によれば、規制要件を満たすためか任意によるものかにかかわらず、ESG報告を行い、自社の開示に対する第三者の開示の保証を得ている組織は、多くの場合、具体的な便益を実現しています。これには、ステークホルダーの信頼の向上、データ品質の改善、サステナビリティ目標に対する内部整合性の強化が含まれます。

特に、ESRSに基づき報告を行っている企業は、同業他社と比較して、取組みに対するより大きなリターンを予想しています。これらの組織は、市場シェアの獲得、収益性の改善、評判の向上、コスト削減、株主価値の向上を期待しています。

ESG保証から期待される上位5つの便益：CSRDのウェーブ1企業vs同業他社

	CSRDウェーブ1	その他
市場シェアの拡大／顧客基盤の拡大	60%	50%
収益性の改善	54%	42%
評判の向上	52%	47%
株主価値の向上／投資家の誘致	49%	42%
コスト削減	49%	39%

ESG報告と保証において認識されている便益は、CSRDのウェーブ1企業のような早期の適用企業に留まりません。KPMGの調査結果は、組織がESGの取組みを進めるほど、得られる利点も増えると考えられています。リーダー企業（ESG報告が進んでいる企業）は、自社の開示に対して保証を受けることで、平均して約8項目の明確な便益を期待しているのに対し、ビギナー企業では6.5項目となっています。

また、優位性を得られると考える主要な項目として、リーダー企業は、事業リスクの低減を特定する可能性が約2倍高く、また株主価値の向上、収益性の改善、投資と資産の最適化の向上などの財務上の利得についても、より楽観的な展望を持っています。

“

企業は、特に第三者保証によって支えられた透明性のあるサステナビリティ報告の価値をますます認識するようになっていきます。サウジアラビアでは、明瞭で充実した情報開示は、魅力的な私募価格の確保やMSCI ESG格付の改善など、好ましい結果に貢献していると指摘する組織もあります。”

Mohammed Saad Hasheem

ESG保証リーダー

KPMGサウジアラビア

重要なポイント：

ESGの成熟度が事業価値を生み出す：CSRDに準拠している企業は、ステークホルダーの信頼の強化、収益性の改善、市場シェアの拡大を実現しています。クライアントは、ESG保証を競争優位性を確保する手段と考えなければなりません。

先行するために今すぐ投資する：早期の適用企業は先行しています。まだCSRDの対象となっていない企業は、現在の期間を利用して、システム、スキル、データ対応に投資する必要があります。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

急速に進展する グローバルな報告



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

**急速に進展する
グローバルな報告**

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

IFRSサステナビリティ基準を視野に入れる

2025年6月現在、IFRSサステナビリティ開示基準の適用を背景とする世界的なモメンタムは加速し続けています。36の法域¹は、本基準を規制枠組みに統合するためのアプローチを適用したか、積極的に利用したか、または最終決定をしたかのいずれの段階にいます²。これらのうち、17の法域は適用戦略を完了したか、または実質的な進展を遂げており³、オーストラリア、ブラジル、中華人民共和国香港特別行政区（SAR）、中国および日本などが先頭に立っています。その他の地域は、気候のみまたは部分的な適用モデルを選択しています。例えば、カナダは、IFRSサステナビリティ開示基準フレームワークと機能的に整合する国内ベースラインを開発中です。

オーストラリアなどの報告が義務化された法域では、取締役および上級管理職による関与が増加しており、企業は、より多くのリソースをサステナビリティ報告とシステムソリューションの成熟化に割いています。開示が外部保証の対象になるという認識も重みを増しています。主要な課題には、気候リスクの財務的影響を定量化することや、すでに公表されている気候移行計画

と整合した報告をすることが含まれています。企業は、充実したサステナビリティ報告がもたらす可能性のあるポジティブな商業的および評判に係る影響を含む便益を認識し始めています。また、規律が要求されることで、機能部門間がより協力的になり、社内の縦割りの解消にも役立っています。

サステナビリティ保証の水準を引き上げる

法域がIFRSサステナビリティ開示基準との整合性を高めるにつれて、サステナビリティ開示の信頼性を支える保証の枠組みにも注目が集まっています。国際監査・保証基準審議会（IAASB）は、初となるサステナビリティ領域に特化した保証基準であるISSA 5000を導入することで、この動きに対応しました。ISSA 5000は、サステナビリティ報告に特有の課題に対処するように設計されており、将来志向の情報、重要性、バリューチェーンのデータを評価するためのより具体的な要求事項が導入されています。この新しい基準は、職業を問わず、限定的保証業務と合理的保証業務に拡張可能で、保証提供者のための統一されたグローバルベースラインを提供します。

その導入は、サステナビリティ保証の実務における一貫性と比較可能性を高め、ステークホルダーの信頼を強化し、高品質で意思決定に役立つESG報告への広範な移行を支援することが期待されています。

“
オーストラリアや日本など、報告が義務付けられているか、まもなく義務付けられる法域では、企業はサステナビリティを取締役会の議題に挙げています——システムに投資し、保証の価値を理解し、充実した報告が規制の要求を満たすだけでなく、部門間の協力や事業価値の向上にもつながることを実感しています。”

大槻 櫻子
ESG保証リーダー
KPMGジャパン

1 ISSB サステナビリティ基準が36の法域で採用される、サステナビリティ研究所、2025年6月16日

2 IFRS財団、ISSB基準の適用に向けた透明性を提供し、進捗を証明する法域のプロファイルを公表：<https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2025/06/ifrs-foundation-publishes-jurisdictional-profiles-issb-standards/>

3 法域別、IFRSサステナビリティ開示基準の使用：<https://www.ifrs.org/ifrs-sustainability-disclosure-standards-around-the-world/use-by-jurisdiction/>

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

規制を超えて： ESG保証は幅広い ステークホルダーにとって 大事なもの

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

規制上の逆風にもかかわらず、規制当局からのプレッシャーは世界中で高まり続けており、ESG開示に対する外部保証を受けることへの主要な原動力となっています。これは、IFRSサステナビリティ開示基準やESRSだけではなく、これまでの2年間において、カリフォルニア州や英国における気候報告に関する法令など、保証を義務付ける他の規制も導入されています。

2023年以降、企業は幅広いステークホルダーからのプレッシャーの高まりに直面しており、そのなかで最も大きかったのは金融市場からのプレッシャーです。機関投資家や個人投資家、資産運用会社は、ESG基準を投資戦略にますます組み込むようになっており、サステナビリティへの強いコミットメントのある企業は、資本コストの低下から恩恵を受けています。まだ規模は小さいものの、地域社会からのESGへの取組みも2023年以降、6倍以上に加速しています。

実際、調査対象となった企業の99%が、ステークホルダーから何らかのプレッシャーを感じていると報告しており、その平均は規制当局以外の少なくとも3つのグループからのものです。

年別のステークホルダーからのプレッシャー

	2025年	2024年	2023年
規制当局	69%	70%	64%
監査委員会	57%	該当なし	該当なし
投資家／株主	53%	53%	46%
金融市場	52%	48%	37%
外部活動家	51%	該当なし	該当なし
サプライヤー	34%	34%	29%
地域社会	26%	9%	3%

割合（％）：2023～2025年にかけて最大の増加

“

監査委員会にとって、サステナビリティ報告はもはや単なるコンプライアンスに関する事項ではなく、リスクの監督に関する事項です。気候やESG関連のリスクが財務業績に重大な影響を与える可能性のある世界では、サステナビリティデータの信頼性と保証を確保することが不可欠です。監査委員会がより強靱なESG報告を推進することで、組織を風評規制や財務上のリスクから保護することができます。”

Farah Bundeali

ESG保証リーダー

KPMGカナダ

プレッシャーは地域によって大きく異なります。ASPACと欧州では規制当局が主要な力を持っていますが、アフリカでは外部の活動家や地域社会がより大きな役割を果たしています。

CSRDのウェブ1の報告企業に見られるように、ESGの報告と保証の準備は長い時間のかかるプロセスです。要求事項が明確になるまで、一時的な規制による要請が停止しているかに関係なく、無駄にする時間はありません。

“

規制や政治的な逆風が続いているにもかかわらず、ビジネスはESG報告と保証の取組みを前進させ続けています。このモメンタムは、充実したサステナビリティに関する実践が、多面的で具体的な価値を提供するという認識の高まりを反映しています。”

Corinne Dougherty

ESG保証リーダー

KPMG米国

“

オーストラリアでIFRSサステナビリティ開示基準の要求事項に基づく報告に関して確立された規制上の確実さは、テクノロジーやデータガバナンスへの投資に対する自信を企業に与えています。プロセスの自動化、リアルタイムデータの収集、サプライヤーやクライアントのシステムとの統合への移行が進んでいるようです。AIはESGデータ分析に使用され始めており、まだ初期段階ではありますが、今後成長が期待されることはほぼ間違いありません。”

Daniel Camilleri

ESG保証リーダー

KPMGオーストラリア

重要なポイント：

ステークホルダーからの圧力が強まっている：

ESG保証はもはや規制だけの問題ではありません。投資家、金融市場、さらには地域社会までもが透明性を求めています。企業は多様なステークホルダーの厳しい目に備える必要があります。

ESGの視点を広げる：企業はESG報告を規制の

タイムラインだけでなく、投資家の期待や市場のトレンドに合わせる必要があります。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

進展の兆しからの 後押し

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある
取組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

変化する規制環境により、報告における進展がより緩やかになったものの、KPMGの調査では、リーダー企業の間で実質的な進歩を確認することができました。これは、他の企業に勇気やモチベーションを与えることでしょう。

企業は最も重要な指標を収集し報告している

KPMGの専門家は回答企業に対して、組織が一般的に追跡および開示している21のサステナビリティ指標について、洞察を提供するように求めました。企業が収集する指標の平均数は2023年以降7.6から9.7に増加しており、特に社会的価値に関するKPIの増加率が最も高く、その割合は3倍以上になっています。次に、ネットプロモータースコア (NPS)、安全衛生、スコープ3排出量、倫理的なサプライヤーの利用と続きます。

企業が外部に報告する指標の数も増加しており、その平均値は2023年以降3.4から5.5に増加しています。報告された指標のなかで最も増加しているものには、サイバーセキュリティ、安全衛生パフォーマンス、NPS、温室効果ガス、社会的価値のKPIが含まれています。

企業のサステナビリティ報告の実務が成熟するにつれて、データ収集の拡大が必要になる場合もありますが、高品質で意思決定に関連した指標に焦点を当てることに、真の価値があるという事実を見失わないことが大切です。意義のある成果を生み出すためには、量よりも精度が大事です。

年別に内部で収集され、外部に報告された主要な指標

	収集			報告		
	2025年	2024年	2023年	2025年	2024年	2023年
サイバーセキュリティ（インシデントと侵害の数）	75%	67%	60%	43%	28%	20%
GHG排出量（スコープ1および2）	73%	68%	55%	51%	50%	39%
ブランド／評判／信頼に関する指標またはKPI	61%	55%	58%	34%	26%	22%
廃棄物	62%	58%	54%	39%	40%	38%
顧客ネットプロモータースコア（NPS）	56%	47%	28%	38%	31%	19%
従業員の維持	56%	39%	45%	26%	15%	12%
労働力の多様性と包括性	55%	48%	46%	25%	26%	20%
GHG排出量（スコープ3）	54%	51%	36%	39%	35%	24%
水使用量	49%	41%	36%	31%	26%	21%
カーボンオフセット	47%	52%	45%	34%	34%	26%
気候関連リスクの影響（TCFD）	45%	52%	47%	35%	32%	22%
安全衛生パフォーマンス（LTIFR、TRIFR等）	44%	43%	25%	32%	27%	13%
従業員エンゲージメントまたは従業員NPS	41%	48%	43%	22%	30%	16%
社会的価値に関するKPI（SROI）	38%	26%	11%	21%	14%	5%
コンプライアンス違反の種類別	37%	44%	31%	11%	13%	7%
倫理的サプライヤー（調達比率）	35%	29%	19%	9%	9%	2%
炭素削減目標を持つサプライヤーの割合	35%	40%	21%	13%	21%	8%
賃金平等	32%	41%	41%	13%	14%	10%
苦情件数	29%	30%	27%	9%	10%	9%
内部告発統計	28%	28%	18%	10%	12%	5%
自然損失	22%	24%	15%	13%	8%	5%
記載された21の指標の平均数	9.7	9.3	7.6	5.5	5.0	3.4

割合（%）：2023～2025年にかけて最大の増加

予想どおり、CSRDはより多くの指標を収集し報告する上で大きな原動力でした。

企業は平均して、収集した指標の半分以上を報告しています。今後、ESRSおよびIFRSサステナビリティ開示基準の両方において、開示は重要性評価に基づいて行われるため、この状況が今後変化するかを観察するのは興味深いことでしょう。

“

CSRDに関しては、リーダー企業でさえ、以前は収集していなかった多くの指標を収集し報告する必要がありました。例としては、懸念される物質、生物多様性重要地域の近くの拠点、性別による賃金格差、サプライヤーの支払条件などが挙げられます。これがCSRD規制の複雑性に関する懸念の背景にあったかもしれませんが、成熟した企業はこれを管理し、リーダー企業としての地位を築いています。”

Oliver Geier

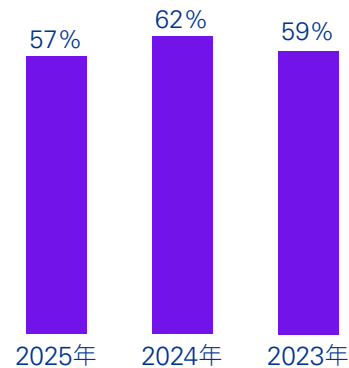
EMA地域ESG保証責任者、パートナー
KPMGドイツ

企業は報告のために新しいテクノロジーを採用している

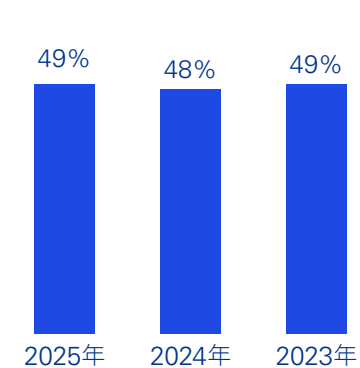
過去2年間で、多くの企業が非財務データを管理するための最新テクノロジーの使用を増加させています。最も急速に成長しているのは、クラウド、データレイク、AIの使用です（従来型だけでなく、生成AIやエージェントAIなど高度なものも含む）。専門的なESGデータダッシュボードやプラットフォームの利用も増加しています。

しかし、規制が流動的であるため、非財務情報の計算と統合するためのデジタルシステムの導入に関しては、多くの組織が保留状態です。これは、非財務データシステムと財務報告システムの統合についても同様です。

ESGデータの分析と 統合するためのデジタルシステムの 導入中～完了



ESGデータシステムと 財務報告システム統合の 導入中～完了



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

品質チェックの改善

過去2年間で、企業は品質チェック手続きを全面的に改善してきました。スタッフ、ラインマネジャー、責任のあるマネジャーによるチェックとテストはすべて大幅に増加しており、場合によっては3倍以上になっています。さらに、サステナビリティデータの正確性やプロセスと統制などの、管理や内部監査によるテストなど、より高度な手続きを適用している調査対象企業の割合もほぼ3倍に増加しました。

調査結果によると、大企業ほど品質チェック手続きに、開示委員会やコンプライアンスレビューを含める可能性が高いことがわかりました。

“ ESGデータの管理と構造化は主要な課題であり、自動化に焦点を当てたESGプラットフォームを通じてこれに取り組んでいます。”

シニア・エグゼクティブ
フランスのテクノロジー企業

品質チェック手続き

	2025年	2024年	2023年	増加の割合
ESG情報を作成しているスタッフには正確性を確保することが要求されます。	10%	12%	3%	3.3x
スタッフのラインマネジャーは、報告の前にその正確性を確認し、承認することが要求されます。	33%	39%	18%	1.9x
報告書に責任のあるマネジャーは、統合されたESGデータに対して品質チェックを行います。	68%	69%	23%	3.0x
ESGデータの正確性に関する管理または内部監査のテストが行われています。	59%	52%	22%	2.7x
ESGデータを支えるプロセスや統制に関する管理または内部監査のテストが行われています。	39%	36%	15%	2.7x
公表前に、すべてのESG開示に対して開示委員会や法務／コンプライアンスレビューが行われています。	33%	39%	19%	1.9x

“ ESGデータは、以前のような非公式で断片的なアプローチから脱却し、正式な統制環境にますます統合されるようになりました。これは、企業がデータの品質を確保するための取組みを明らかに強化しているという重要な変化を示しています。”

Patrick Chu
ESG保証リーダー
KPMG中国

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

企業のスキルとトレーニングがわずかに向上

多くの企業は、ESGパフォーマンス指標と開示を管理するために必要なスキルを備えたチームの設置に関して、過去2年間で一定の進展を遂げています。2023年の44%と比較して、2025年には半数以上の企業が中程度または完全な導入を報告しています。

より多くのリソースを持ち、規制当局やステークホルダーからのプレッシャーが強い大企業は、より規模の小さい企業に比べESGチームの設立が進んでいるようです。

トレーニングに関しては、KPMGの調査によると、ほとんどの企業が年次または任意のESGトレーニングを提供していることがわかりました。大企業は他の企業よりも、少なくとも一部のESGトレーニングを義務化しているようです。

“

スキルの差は、EUのオムニバス規定の「ストップ・ザ・クロック」条項—CSRDのウェブ2の導入を2年遅らせること—が合理的であるだけでなく、必要である理由を浮き彫りにしています。多くの中小企業は現在、報告書の要求を満たすための専門性を欠いており、この一時停止がなければ情報の質に影響が出るでしょう。”

Neil Morris

保証・ESGメソドロジー グローバル責任者
KPMGインターナショナル

収益規模に基づく企業におけるサステナビリティ研修の頻度

	250億米ドル超	250億米ドル未満
随時（問題が発生した時）	1%	3%
年次（更新およびリフレッシュ）	30%	37%
年間を通じて定期的に行われる任意のESGトレーニング	22%	30%
年間を通じて定期的に行われる任意および必須のESGトレーニング	29%	20%
年間を通じて定期的に知識確認を行う必須のESGトレーニング	18%	10%

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

サプライヤーのプロセスと要件への強化に対して現実的なアプローチを取る企業

ESG報告と保証の取組みを支えるためのプロセスをサプライヤーに導入している企業の割合は、過去2年間で増加しています。実際に、サプライヤーに特定のESGデータの提供を求める割合と、契約上の手段を利用する企業の割合は、いずれも2023年以降倍増しています。その期間において、スクリーニングをサプライヤーのオンボーディングに組み込み、サプライヤーにESGデータの保証を取得するよう要求する企業の割合も増加

しています。

しかし、規制が変更される可能性があることも1つの理由として、この分野における多くの指標は、基本的に変わっていません。EUオムニバスパッケージ法案が可決されれば、バリューチェーンに上限が導入されることにより、企業がサプライヤーに課すことができる要件や報告が制限されます。

年別のESGサプライヤー要件

	2025年	2024年	2023年
取引先のESG要件は設定していません。	2%	2%	2%
贈収賄や腐敗に関する基本的な要件を設定し、契約やその他の法的文書に組み込んでいます。	40%	36%	42%
幅広い要件を設定し、契約やその他の法的文書に組み込んでおり、遵守をモニタリングしています。	49%	46%	44%
厳格な製品特有の要件が、すべての運用プロセスに組み込んでおり、契約に明記し、遵守をモニタリングしています。	9%	16%	12%

“

サプライヤーからのESGデータの遅延に課題を抱えており、プロトコルを厳格化し、ESGダッシュボードを導入することで解決を試みています。”

最高リスク責任者
米国テクノロジー企業

52%

のCSRDのウェブ1企業が
サプライヤーに幅広い要件を
課している。

重要なポイント：

指標とテクノロジーの採用が増加している：企業はより多くのESG指標を収集し、報告しており、AI、クラウド、ESGダッシュボードの使用を増やしています。クライアントは、ESGデータ管理を合理化するためのデジタルツールに投資する必要があります。

品質管理が向上している：内部統制と監査プロセスを強化することは、もはや通常に行われるようになっています。クライアントは、信頼性を確保するために、ESGデータをより広範な管理環境に組み込む必要があります。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から
得られた教訓

CSRDがもたらした
具体的な便益

急速に進展する
グローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は
幅広いステークホルダーに
とって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：
行動への要請

KPMGのサービス／
ツールの紹介

リーダー企業 から学ぶ： 行動への要請



はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

**リーダー企業から学ぶ：
行動への要請**

KPMGのサービス／
ツールの紹介

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

ESG報告と保証に関する要求が世界中でますます広まるなかで、一部の企業では複数の規制制度を通じて影響を受けるため、これまで進展が限定的だった企業は、今後数年間で進展を加速させることを検討する必要があります。

KPMGの調査から得たリーダー企業に関する示唆を基に、成熟度を測る5つの柱をフレームワークとして考慮すると、以下の主要な教訓が得られました。

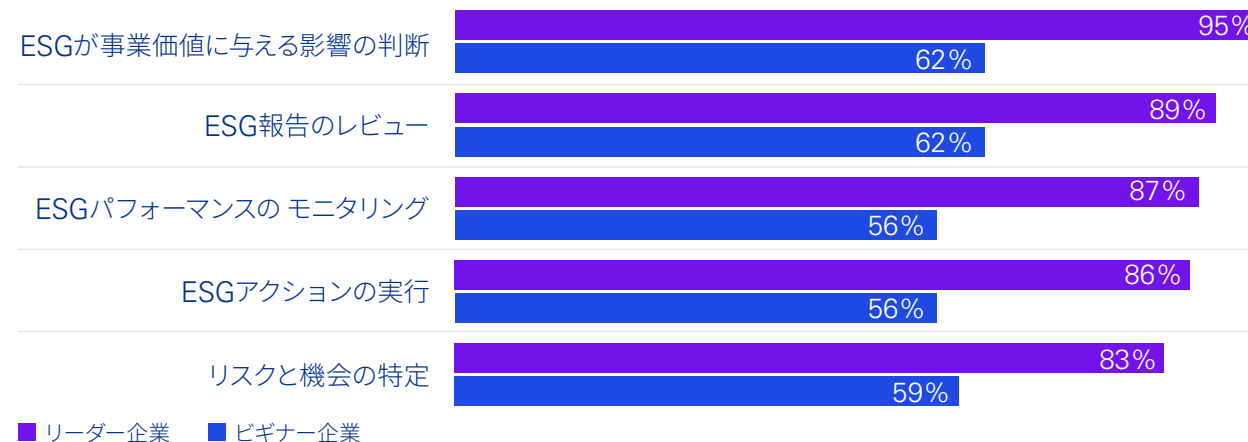
1 ガバナンス

昨年にかけて、リーダー企業の取締役会は、次の3つの主要な監督領域において、より多くの責任を負うようになりました：ESGパフォーマンスのモニタリング、ESG報告のレビュー、ESGが事業価値に与える影響の判断。リーダー企業のほぼすべての取締役会は、ESGが事業価値に与える影響を判断するうえで、少なくとも中程度の役割を果たしています。リーダー企業の取締役会の約3分の2は、ESGに関する事項を議論するために、少なくとも四半期ごとに会合を開いています。これに対して、ビギナー企業では半数未満となっています。

考慮すべき質問：

- 取締役会はESGアジェンダに十分に関与し、参加していますか？
- 取締役会メンバーは、ESG報告と保証のアプローチに有用な助言をしていますか？

取締役会の責任が、中程度から広範な分野



■ リーダー企業 ■ ビギナー企業

“

サステナビリティ報告の規則は、報告と保証の透明性と堅牢性を高めるだけでなく、経営陣のさらなる関与を促進し、環境、社会、ガバナンスの目標から長期的な価値を向上させ創出するための説明責任を強化することもできます。”

George Richards

ESG保証リーダー

KPMG英国

“

大規模なデータセットを分析するのは困難です。これを克服し、より良い結果を得るためにAIと機械学習を導入しています。”

最高リスク責任者
中国の製造業者

2 スキル

リーダー企業は、ESG開示を管理するために必要なスキルとトレーニングを備えたチームの設置に関して進展を遂げています。必要なスキルを備えたチームの設置を完了したリーダー企業は37%で、昨年の19%と比較して増加しています。ビギナー企業では、導入の中間段階にあるのはわずか13%で、完全導入に至っているのは2%です。リーダー企業の68%は、ESG事項に関する何らかのレベルの必須トレーニングを従業員向けに実施していますが、ビギナー企業ではわずか8%でした。さらに、リーダー企業の57%は、内部スタッフと外部機関の組み合わせを利用したトレーニングを実施していますが、ビギナー企業では約4分の1にとどまっています。

考慮すべき質問：

- ESGトレーニングに関する明確なアプローチはありますか？
- 主要なESGトピックに関するトレーニングをスタッフに義務付けていますか？

“

組織内のESGスキルの不足は大きな障害であり、スキルアップ、採用、ESGセンター・オブ・エクセレンスの設立を通じて対処しています。”

取締役
カナダのエネルギー企業

3 データ管理

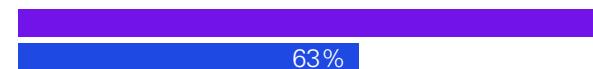
リーダー企業は、いくつかの主要なデータ管理分野で前進しています。リーダー企業のほぼすべて（96%）が、ESG KPIの定義付けと、そのデータの社内における収集と報告において、中程度または大幅な進展を遂げています（94%）。また、社外におけるデータ収集と報告についても前進が見られ、92%がこの分野で中程度または大幅な進展を報告しており、昨年の88%から増加しています。しかし同時に、リーダー企業は、ESGへのアプローチを検討するうえで、現状をさらに進展させることへ動機付けについては慎重です。リーダー企業は、ビギナー企業の約4.2倍の確率で、ESGパフォーマンスデータの収集と管理をするために、統合されたガバナンス、リスクおよびコンプライアンス（GRC）システムを使用している可能性があります。これは、リーダー企業がESGリスクを積極的に特定・軽減し、関連する基準や規制要件への準拠を確保し、信頼性を強化し、ESGデータの収集と報告を合理化させるのに役立っています。

考慮すべき質問：

- 主要なテクノロジープラットフォームにおいて、データを詳細なレベルで管理していますか？
- 元化されたGRCシステムを通じてESGパフォーマンスをモニタリングできますか？

ESG指標の定義付けと管理における中程度または大幅な進展

主要な業績評価指標（KPI）の定義付け



社内におけるKPIデータの収集と報告



社外におけるKPIデータの収集と報告



進展への動機付け



■ リーダー企業 ■ ビギナー企業

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

4 デジタルテクノロジー

リーダー企業は、ESGデータ管理を改善するためにデジタルテクノロジーを採用し続けています。約半数が、デジタルツールがESG保証を達成するための鍵であると述べています。そのため、リーダー企業はさまざまなデジタルテクノロジーの採用を加速させています。リーダー企業は、KPMGが質問した15種類のデジタルツールのうち、平均5.5のツールを採用しているのに対し、ビギナー企業では4.4です。

サイバーセキュリティツール、データレイク、クラウドなどの他の高度なテクノロジーソリューションの使用に関しても、リーダー企業はビギナー企業よりもはるかに進んでいます。生成AIとエージェントAIはまだ初期段階にあります。生成AIとエージェントAIはまだ初期段階にありますが、リーダー企業の約3分の2は従来のAIを活用してESGコンプライアンスを改善させており、ビギナー企業（57%）よりもやや多くなっています。

より広い視点で見れば、過去3年間で、企業は非財務データの収集、管理、保存、分析のためにAIや新しいテクノロジーの使用を大幅に増加させています。この傾向は、従来のツールでは効率的に対応することが困難な、膨大で複雑なデータセットから洞察を抽出する必要性の高まりを反映しています。

考慮すべき質問：

- データ管理を改善するためにデジタルテクノロジーを活用していますか？
- 組織は、生成AI対応のソリューションやツールに投資しているか、またはそれを検討していますか？

リーダー企業による3年間の使用増加率が最大の技術

技術	2025年の使用	2023年の使用	ポイントの増加
クラウド	83%	58%	+25
ESGデータダッシュボード	53%	26%	+27
ESGプラットフォーム	50%	20%	+30
データレイク／データセンター	38%	16%	+22
生成AI	16%	0%	+16
従来のAI	65%	49%	+16
IoT	63%	60%	+3

リーダー企業はより多くの指標を収集し、次の4つの分野で大幅にリードしています。

- 1 気候関連のリスク — 環境サステナビリティの中核にあります。
- 2 データプライバシーや汚職防止など種類別のコンプライアンス違反 — リスク軽減戦略と全体的な説明責任を支援します。
- 3 健康と安全のパフォーマンス — 企業の最大の資産である従業員を保護するために不可欠です。
- 4 温室効果ガス排出量（スコープ3） — 組織のカーボンフットプリントをより完全に測定します。

5 バリューチェーン

サプライヤーに対して充実したESG報告とプロセス要件を導入することは、ESGの成熟度における重要な側面です。しかし、おそらく規制の不確実性のために、この分野では現在多くの企業が一時停止している状況です。リーダー企業の79%は依然として厳格な要件を課していますが、2024年の93%から減少しています。ほとんどのビギナー企業はサプライヤーに基本的な要件だけを課していますが、厳格な要件を定める割合は2024年の14%から現在の24%に急増しています。リーダー企業のなかでは、サプライヤーに特定のESG情報を報告を求める企業の数が増加しています。一方で、サプライヤーにESGデータフィードの提供、オンボーディングプロセスへのESGスクリーニングの組み込み、主要なサプライヤーが企業のESG戦略を支持していることの確認、データに対してESG保証を取得することに対するサプライヤーへの要求、契約上の手段を使用してESGパフォーマンスを向上させることを要求している企業数は、昨年と実質的に変わっていません。

考慮すべき質問：

- ESG要件についてサプライヤーと対話し、それを明確にしていますか？
- サプライヤーのESGコンプライアンスとパフォーマンスの向上に向けた道筋はありますか？

“

私たちは今、ビギナー企業がどこに投資すべきかを知っています。チームの支援とスキルの向上を継続し、ESGプラットフォームを構築し、データをより適切に管理し、取締役会との対話をより頻繁に実施してください。これは単なる規制上の問題ではありません。周囲の他のステークホルダーもこれを望んでいるので、モメンタムを維持し続けてください。”

Sebastian Soares

ESG保証リーダー

KPMG ブラジル

取組みを前進させる

自社の事業が世界のどこで行われているとしても、何らかの形でESG報告と保証の要求事項が近く導入される可能性が高いです。準備を整えるには、相当な労力と時間がかかる場合があります。そのため、取組みを始め、一度始まったらモメンタムを維持することが不可欠です。

初期段階では、重要性評価が出発点として適しており、関連するサステナビリティ指標を特定し、戦略を形成し始めるのに役立ちます。

ESG保証の準備をすることも重要な要素です。これは、開示に適した評価基準を持ち、監査人や保証提供者が保証の結論を形成するために必要な、適切な品質のデータに関して十分な証拠を保有することを意味します。KPMG保証準備サービスは、この複雑性のなかで前進するのに役立ちます。また、KPMG ESG保証成熟度ベンチマーキングツールは、同業他社と比較して準備状況をより良く解するのに役立ちます。

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

連絡先

KPMGインターナショナル

Mike Shannon
E: mshannon@kpmg.com

Neil Morris
E: neil.morris@kpmg.co.za

Meredith Evans
E: mlevans@kpmg.ca

米国

John Depman
E: jdepman@kpmg.com

アジアパシフィック

Nicola Buddee
E: nbuddee1@kpmg.com.au

欧州、中東、アフリカ

Oliver Geier
E: ogeier@kpmg.com

Susanna Di Felicianantonio
E: sdifelicianantonio@kpmg.com

オーストラリア

Daniel Camilleri
E: dcamilleri@kpmg.com.au

ブラジル

Sebastian Soares
E: ssoares@kpmg.com.br

カナダ

Farah Bundeali
E: fbundeali@kpmg.ca

中国

Patrick Chu
E: patrick.chu@kpmg.com

フランス

Sophie Sotil Forgues
E: ssotil@kpmg.fr

ドイツ

Oliver Geier
E: ogeier@kpmg.com

日本

Sakurako Ohtsuki
E: sakurako.ohtsuki@jp.kpmg.com

メキシコ

Carlos Fernández
E: cfernandez4@kpmg.com.mx

サウジアラビア

Mohammed Saad Hasheem
E: mhasheem@kpmg.com

オランダ

Danielle Landeszcampen
E: landeszcampen.danielle@kpmg.nl

英国

George Richards
E: george.richards@kpmg.co.uk

米国

Corinne Dougherty
E: cdougherty@kpmg.com

スペイン

Patricia Reverter
E: preverter@kpmg.es

はじめに

メソドロジー：指数について

エグゼクティブ・サマリー

ESG保証：さまざまな段階にある取り組みへの進捗

CSRDの導入から得られた教訓

CSRDがもたらした具体的な便益

急速に進展するグローバルな報告

規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの

進展の兆しからの後押し

リーダー企業から学ぶ：行動への要請

KPMGのサービス／ツールの紹介

KPMGのサービス／ツールの紹介

KPMG保証準備

KPMG保証準備サービスは、組織が将来的にESG情報の保証を受けるために必要な前提条件を備えているかどうかを判断するのに役立ちます。この測定は、明確かつ十分に具体的である必要があります。また、証拠が利用可能であり、評価基準を裏付けているかどうかを測定する必要があります。

KPMG保証準備サービスは、自社が完全にESG保証を受ける準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。これは、ESG保証の取組みの第一歩です。また、開示に追加される新しい情報や、ESGアジェンダおよび戦略が成熟するにつれて提供できるサービスでもあります。

自社はESG保証を受ける準備ができているか？

ESGアジェンダは急速に進展しており、企業にESGリスク、機会、パフォーマンスに関する報告を義務付ける新しい規則が施行されています。この報告を信頼できるものにするために、開示には独立した第三者による保証が必要になります。企業の準備を支援するために、KPMGはKPMG ESG保証成熟度指数ベンチマーキングツールを開発しました。このツールは、企業の進捗を5つの分野（ガバナンス、スキル、データ管理、デジタルテクノロジー、バリューチェーン）で測定します。

グローバル企業報告インスティテュート

KPMGグローバル企業報告インスティテュートのページには、財務報告とサステナビリティ報告に関する主要なKPMGリソースが集約されています。これらは、明確でつながりのある報告を作成するのに役立つように設計された洞察、ハイレベルなガイダンス、詳細な分析を提供します。

KPMGサステナビリティ報告調査2024

サステナビリティ報告は、世界の大企業250社のほぼすべてと、各国、領域または法域の上位100社の大部分で、通常の業務の一部となっています。過去2年間では、炭素削減目標を公表している企業の割合が大幅に増加しています。生物多様性について報告している企業の割合は依然として比較的に低いですが、2022年以降同様に増加しています。この調査の結果、EUのCSRDを含む、一部の法域でまもなく義務化される報告実務の増加が見られました。この報告書には、KPMGのメンバーファームからの洞察が含まれており、対象分野における世界中のKPMGの専門家の経験が活用されています。

[はじめに](#)[メソドロジー：指数について](#)[エグゼクティブ・サマリー](#)[ESG保証：さまざまな段階にある取組みへの進捗](#)[CSRDの導入から得られた教訓](#)[CSRDがもたらした具体的な便益](#)[急速に進展するグローバルな報告](#)[規制を超えて：ESG保証は幅広いステークホルダーにとって大事なもの](#)[進展の兆しからの後押し](#)[リーダー企業から学ぶ：行動への要請](#)[KPMGのサービス／ツールの紹介](#)

執筆者



Mike Shannon

ESG保証グローバル責任者
KPMGインターナショナル

マイクは2022年1月からKPMGのESG保証グローバル責任者を務めています。グローバル監査リーダーシップチームの一員として、KPMGのグローバル監査戦略にESG保証を組み込むための取組みを指揮しています。これは、サービス全体にESGを統合するという組織のコミットメントを反映しています。

このグローバルな役割に就く前は、マイクは米国を拠点として、化学およびパフォーマンス技術部門を率い、米国監査セクターのリーダーを務めていました。多国籍のクライアントとの業務経験が豊富であり、特に石油化学業界ではKPMGの最も経験豊富な監査パートナーの1人として認識されています。



Neil Morris

保証・ESGメソドロジーグローバル責任者
KPMGインターナショナル

ニールはKPMGで25年の経験を持つ公認会計士であり、南アフリカと英国で勤務しています。2021年8月から、KPMGで保証・ESGメソドロジーのグローバル責任者を務めています。2010年に南アフリカの気候変動・サステナビリティ部門の責任者に任命されて以来、サステナビリティ保証業務に積極的に関与しています。2017年には、KPMG南アフリカの監査リスク管理責任者に就任するとともに、引き続きサステナビリティ保証業務を行っています。

2023年1月には、国際監査・保証基準審議会 (IAASB) に任命され、IAASBのサステナビリティ保証タスクフォースのメンバーとして、国際サステナビリティ保証基準 (ISSA) 5000の策定に取り組んでいました。

本冊子で紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則および利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはあずさ監査法人までお問い合わせください。

kpmg.com



本冊子は、KPMGインターナショナルが2025年7月に発行した「KPMG ESG Assurance Maturity Index 2025」を、KPMGインターナショナルの許可を得て翻訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供しよう努めておりますが、情報を受け取られた時点およびそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2025 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved.

© 2025 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 25-1032

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited（「KPMGインターナショナル」）の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社（private English company limited by guarantee）です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、kpmg.com/governanceをご覧ください。

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.

本冊子において、「私たち」および「KPMG」はグローバル組織またはKPMG International Limited（以下「KPMGインターナショナル」）の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが独立した法人です。

Designed by Evalueserve.

Publication name: KPMG ESG Assurance Maturity Index 2025 | Publication number: 139457-G | Publication date: July 2025

© IFRS® Foundationすべての権利は保護されています。有限責任 あずさ監査法人はIFRS財団の許可を得て複製しています。複製および使用の権利は厳しく制限されています。IFRS財団およびその出版物の使用に係る権利に関する事項は、www.ifrs.orgでご確認ください。

免責事項: 適用可能な法律の範囲で、国際会計基準審議会とIFRS財団は契約、不法行為その他を問わず、この冊子ないしあらゆる翻訳物から生じる一切の責任を負いません（過失行為または不作為による不利益を含むがそれに限定されない）。これは、直接的、間接的、偶発的または重要な損失、懲罰的損害賠償、罰則または罰金を含むあらゆる性質の請求または損失に関してすべての人に適用されます。

この冊子に記載されている情報はアドバイスを構成するものではなく、適切な資格のあるプロフェッショナルによるサービスに代替されるものではありません。

「ISSB™」は商標です。「IFRS®」、「IASB®」、「IFRIC®」、「IFRS for SMEs®」、「IAS®」および「SIC®」はIFRS財団の登録商標であり、KPMG IFRG Limitedおよび有限責任 あずさ監査法人はライセンスに基づき使用しています。この商標が使用中および（または）登録されている国の詳細についてはIFRS財団にお問い合わせください。